

The 2018 Annual Meeting of the Society for Judgment and Decision Making
参加報告書

広域科学専攻 広域システム科学系
修士課程1年 顧 元琪
所属研究室: 植田一博研究室

私は「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」をいただき、2018年11月16日～19日において、アメリカのNew Orleansで開催されたThe 2018 Annual Meeting of the Society for Judgment and Decision Makingに参加した。今回は初めての国際学会であったうえ、自分の専門分野である意思決定に特化した学会ということもあり、参加する前から楽しみにしていた。実際現場に行ってみると、期待した通り、興味をそそられるトピックを扱ったトークやポスターが多くワクワクした。毎日朝から晩まで会場に滞在し、多くのセッションに参加したため、ホテルに戻るとすぐに眠ってしまうような充実した日々を送ることができた。

トークセッションでは、最適化や推論、学習といった比較的古典的な研究から、損失回避や確率、不確実性、ファイナンスといった行動経済学誕生時から注目を集めてきたもの、時間割引やナッジ、消費者行動といった近年話題のものまで幅広いトピックが用意されていた。さらには、利他性や向社会性、動機付けといった他の社会学と関わりの深い研究も豊富にあった。日本国内では、これほどバラエティに富んだ意思決定の研究発表に出会う機会がなかなかないので、一気に視野が広がる思いがした。ポスターセッションはさらに多様性に富んでおり、上記のトピック以外にも感情や身体、脳科学、環境、健康などを扱ったものが見受けられた。研究の内容や手法は言うまでもなく、英語を使う発表の方法に関しても学ぶべきものが多くあった。

私は「Words save a life: How verbal probability expressions and emotion affect people's donation」というタイトルでポスター発表を行った。確率を表す表現の一種である言語確率が人々の寄付行動に与える影響を、感情との絡みに注目して調べた研究である。割り当てられた発表時間は早朝で、周囲が少し閑散とした場所であったため人が来るかどうか心配だったが、10人以上の研究者が発表を見に来てくださった。中には感情に興味を持っている方や言語確率に取り組んでいる方がおり、一歩踏み込んだ議論もできた。マーケティングを専門とする教授からは、基礎的な研究の応用に関する話を聞くことができた。

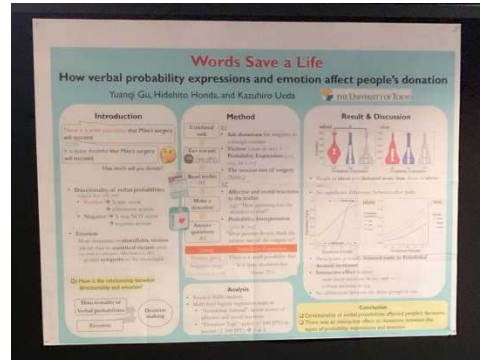
今回の学会では研究発表に限らず、著名な研究者による講演や研究者同士の交流の場も設けられた。ここでの出会いは私自身の研究へのモチベーションを高めたり、研究姿勢を改めて見直したりする機会を与えてくれた。最後に、今回の学会参加を支援してくださった広域科学専攻の皆様、指導教官の植田先生をはじめとする全ての方に心よりお礼を申し上げたい。



A



B



C

- A: 発表会場の Hyatt Regency hotel
- B: 学会名を示すパネル
- C: 私のポスター